ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E1440015	障害児教育史　(History of Special Education　)		

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	2	教育学部			氏名　古長治基 E-mail　h-kocho@oita-u.ac.jp　内線　6147

授業の概要	古代から現代までの障害児に対する障害観や特別支援教育制度の変遷と、障害別の教育内容・方法の歴史的流れについて学ぶ。その中で、さまざまな時代の社会情勢や科学の発展と共に、その捉え方の変遷があったことを理解し、教育の重要性と課題について考えることを目的としている。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	障害者の処遇の歴史と社会情勢や科学との関連について述べるができる。	○	○	○	○						
目標2	障害者の処遇に関する歴史上の課題を記述できる	○	○	○	○						
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	健常と障害
2	海外・わが国における障害者の処遇の歴史　視覚障害
3	海外・わが国における障害者の処遇の歴史　聴覚障害
4	海外・わが国における障害者の処遇の歴史　肢体不自由
5	海外・わが国における障害者の処遇の歴史　知的障害
6	海外・わが国における障害者の処遇の歴史　病弱
7	障害児教育から特別支援教育へ
8	国内の特別支援教育の現状　特別支援学校
9	国内の特別支援教育の現状　特別支援学級
10	国内の特別支援教育の現状　通級
11	社会情勢、科学の発展と障害
12	現代における障害
13	現代の特別支援教育における諸課題
14	わが国の特別支援教育の課題と展望　制度について
15	わが国の特別支援教育の課題と展望　指導について

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	各回で、扱った内容についてディスカッションの機会を設ける。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する（10h）。発表について、関連事項の調査や発表準備等が必要となる（10h）。
事後学修	授業時に扱った内容について考え、関連する資料を読む等（15h）。

教科書	テキストは指定しない。
参考書	特別支援学校学習指導要領等 中村満紀男・荒川智（編著）　（2003）　障害児教育の歴史　明石書店　ISBN-13　978-4750318011 菅原伸康（編）（2011）　特別支援教育を学ぶ人へ―教育者の地平―　ミネルヴァ書房　ISBN-13　978-4623059911

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
討論への貢献	30%	○									
発表	30%	○	○								
最終レポート	40%		○								

注意事項	なし。
備考	疑問や自分の意見について積極的に発言すること。発表、議論には参加者の積極的な参加を求める。
リンク	URL